



ぶっく★まーく編集スタッフ

ルナの韓国ホームステイ体験記

2017年の夏、公益財団法人ラボ国際交流センターの韓国交流に参加し、10日間のホームステイを体験！

★ホームステイに、出発～

小学5年生から高校生までの子どもたち20人とチューター(指導者)8人が参加しました。アジアホームステイは初体験、韓国語は話せるレベルではなく、とても緊張していました。

★ホストに出会う

ソウルの南、安山市の共働き夫婦と4年生の一人息子のおうちにホームステイしました。フルタイムで働くホストは夢に向かって毎日頑張っている、輝く女性です。子育てに積極参加の夫、ホストのお母さんのやさしい手助け…とてもすてきなファミリーです。「アニョンハセヨ、チョヌンルナ イムニダ(こんにちは、私はルナといいます)」と言うのが精一杯。そんな私に、ホストは片言の日本語や英語、スマホの翻訳で一生懸命ことばを掛けてくれました。覚えた韓国語をおそるおそる使ってみると、とても喜んでくれました。

★いよいよ交流開始

ホストも日本語を教えて欲しいというので、お互いに『これはなんと言うの?』『これはこう言うよ』と辞書やスマホの翻訳を使いながらいっぱい話すようになりました。

何種類かの韓国の家庭料理をいっしょに作りました。

一番楽しかったのは、色々な野菜や天ぷら、漬け物などをのりで巻く「キンパ作り」です。見かけは日本の海苔巻きとそっくりですが、「お味」はごま油とニンニクが主役。言葉も食べ物も、たくさんの共通点を発見できました。

次は・・・私が「和食の天ぷら」作り！

息子のジョウンくんは「おいしい！」とタマネギの天ぷらをすっかり平らげました。

★子どもたちへのプレゼント

半年間がんばって『はらぺこあおむし』の韓国語を暗唱できるようにしていきました。皆が集まったときに何度か披露でき、「韓国語が上手ですね」と言われて照れてしまいました。つたなくてもお国のことばを話せると悦ばれます。

★ホームステイ最後の夜・・・そして

近くに住むホストのお母さんがお赤飯を炊いてごちそうしてくれました。「これは特別のお祝いの時に炊くのだよ」とホストのシンラン(夫)に説明され、「日本でも同じです、ありがとう」。みんなの気遣い感激です。ホームステイを終えたメンバーはそれぞれに思い出をいっぱい抱えて集まってきました。食事や買い物ではハングルが飛び交うようになっていました。

★ホームステイを終えて

「近くて遠い国」だったのですが、「距離も近くて、文化もすごく近いけど違いもある、そして大切な人のいる国」になりました。観光だけでなく、“Face to Face”の交流を草の根で続けていくことの大切さを、改めて確認できました。



こんなに近い日本と韓国



たくさんの具を準備して、キンパづくり。楽しかった！おいしかった！！



『はらぺこあおむし』を披露 ☆子どもたちの瞳☆ キラッキラ！！

※公益財団法人ラボ国際交流センター

事業概要

青少年の国際友好親善の推進と国際理解教育の促進、地域の多文化共生の推進と日本語普及活動および言語の調査研究活動 ※HPより

旅つれづれ……初めて仁川(インチョン)空港に降り立った時、「ん、これは、キムチのにおいか……?」。漂うにおいが気になったのですが、帰りは気になりませんでした。「いろいろの体験がにおいの感覚を変えてくれた!？」～もしかすると、大好きなキムチの精が私に下りてきたのかしら?～